

戦時糧秣日量増加糧食縦列編制との関係

参謀本部第二部

0401

戦時糧秣日量増加下糧食縦列編制との関係

第一尋常糧食用罐詰肉日量四十目ヲ五十目ニ増加スルヲ

現制ニ於ケリ尋常糧食用罐詰肉一人ノ日量四十目ヲ委負ノ審査量ニ從テ五十目

トナスルハ現制ト委負案トノ一人一日分ノ副食物ノ負量及之ニ要スル梱包量ノ

比較左ノ如シ

品目	比較		現制		委負案		委負差層加
	正	味	梱包量	計	正	味	
罐詰肉	四十目		三十四目五分	七十四目五分	五十目		八十四目五分
梅干	十二目		四目五分	十六目五分	十二目		十六目五分
醬油	三目		二目五分	五目五分	三目		五目五分
合計	五十六目		四十四目五分	九十五目五分	六十五目		九十四目五分

前表ノ計算ニ於テハ罐詰肉十目ヲ増加スル為メニハ梱包量ヲ合セテ十八目七分即チ約十

九目ニシテ現制ニ對シ約五目ノ増加ヲ要ス之ヲ為メニ糧食一縦列ニ自副食物車輛數

於テハ輛線備轉馬一頭ヲ増加セザルニ可ラリルハ附表第一表ニ示ス所ノ如シ

此車輛及輕馬ノ増加ニ因リ糧食縱列ノ行軍長徑ヲ増大スルコト左ノ如シ

糧食縱列一何ノ付約五十九米突

同 四何ノ付約二百米突

現制ニ於ケル一師團輜重縱列ノ全長徑(橋隊間距離ヲ除ク)ハ實ニ一万八千九百九十二米突ノ迄長ク有リ已ニ其過大ニ發ク所ナリ然レニ之ニ前掲ノ長徑ヲ加ヘントスルハ輜重縱列ノ運用上實ニ好ミシカラレル所トス故ニ一人ノ日量ヲ増カスルモノトセハ給與全人負ニ對シテ飼食物ハ全人負ノ幾分ヲ減シ以テ糧食縱列ノ増加ヲ防クノ方法ヲ取リル可カラレルナリ

(給與全人負ノ約十分ノ一ニ對スル飼食物ヲ減シ地方ニ得ル物ヲ以テ之ヲ補換スルモノトセハ車輛ヲ増加セザルを得ル)

附言○銷詰肉ノ増加ハ實ニ糧食縱列車輛ノ増加ノコトヲ各部隊大行李ノ駄馬ニ亦増加セザル可ク其増加ハ步兵大隊、騎兵聯隊、山砲中隊、工兵中隊、衛生隊ニ各駄馬一頭ニシテ一師團執行列ノ為ニ要スル増加ハ駄馬凡二十頭トス(輜重縱列ノ於テモ行李車輛ノ若干増加ヲ要スヘシ)

隊ニ對シテ糧糶日糧三合ヲ四合九勺銷詰肉四斗五勺九斗目ニ増加シ又擔子帶

馬糧玄米三升五合ヲ脱稈大麦三升ト改ムル事

現制馬糧糠糠ト季負ノ審査量トノ一日量ニ對スル重量比較左ノ如シ

0404

項目	現		舊		備考
	正味	梱色量	正味	梱色量	
精	三合 百五十分	七十七分	四合 百八十分	四合 百五十分	
帶	四十分	五十分	八十分	六十分	
口					
食	三十分	五十分	九十分	三十分	
計	百四十分	百九十分	三百三十分	百六十分	
帶					
馬					
糧					
計	九百七十分	七百五十分	一千九百七十分	一千七百七十分	

備考
 馬糧口糧重量、經理局ノ調査、依リ、玄米ノ經理局ノ調査ト季負調査ノ中數、依リ、又脱稈大麦ノ重量、又季負ノ調査、依リ、又又季負ノ調査、用、是等、經理局ノ調査、基、正味、比例、増加、セ、ル、ト、ス

右ノ表、中、馬糧、糠、糠、ト、季、負、ノ、大、麥、三、升、ト、大、麥、四、升、ト、(脱、稈、大、麥、缺、乏、)ノ、際、ニ、于、テ、脱、稈、大、麥、ヲ、代、用、ス

又、十日量トシテ委負ノ審査セシ量用トスノ重量ヲ比較スルニ其正味ノ重量ハ左ノ如ク
略同ナルヲ以テ脱稼大麦ヲ以テ比較ノ基礎トス

大麦四斗 経理台調査一貫百匁
委負調査一貫百三匁

三種平均 一貫百十六匁

脱稼大麦三斗 委負調査一貫百五匁

前表ノ數量ヲ基礎ニシテ糧食総列ノ積載量ヲ計算スル時ハ委負案現制對シ精六斗
ニテ六輜割食物ニテ六輜馬糧ニ於テ六輜合ヒテ四十八輜ノ増加ヲ見ルトモ此ハ九米携
帶口糧ヲ積載スル糧食総列ハ車輛ノ剩余アリテ別豫備ノ食物ヲ積載セシメ得ルモノ
ナリヲ以テ携帶糧秣ノ増加ハ毫モ糧食総列ノ編制ニ影響ヲ及ボサスシテ尙十輜ノ剩
餘アルヲ以テ糧食総列ノ携帶糧秣ノ増加ニ關シテ異存ナシ

附言ノ携帶糧秣ノ日量増加ニ關シテ糧食総列ノ編制上ニハ影響ヲ及ビ
テ以テ此点ニ就テハ敢テ異議ナシトモ此増加ハ直接ニ人馬ノ負携量ヲ増大
セシムルヲ以テ更ニ考究セサル可ラサルモノアリ 抑モ携帶糧秣給養ヲ施行スル

場合ハ概シテ人馬ノ勞働最モ過(劇)ナルトキニ於テハ從テ給養品モ亦既多ク
 ルヲ要ス、キハ衛生上必然ノ理歟トス然レモ全戦役間ニ於テハ携帶糧秣
 給養ヲ行フ、キ回数ト人馬毎日負擔量ノ増加トニ顧念セハ學理的一偏
 ノ衛生問題ヲ以テ首ニ携帶糧秣ノ増量ヲ決行シ難キモノアリ即チ此増量ニ
 對シ人負ハ約百五十匁(一日ハ正味六十二匁之ニ猶ノ袋又籜ノ増加量ヲ含セハ
 二百匁ニシテ少クモ百五十匁トナル)又乘馬ニ在テハ約三百匁(乘馬者ノ携帶口
 糧百五十匁ト携帶馬糧ノ増加量百四十匁又馬糧袋ノ増加重量凡ソ九匁ト
 仮定ス)駄馬ニ在テハ約百五十匁(正味又馬糧袋ノ仮定増加量)ノ負擔量ヲ増加
 シ此増加負擔量ハ實ニ全戦役間人馬ヲシテ過度ニ勞働セシムルモノナリ然
 ルニ全戦役中極メテ稀ニ際會ス、キ携帶糧秣給養施行ノ場合ニ稍豊富ノ
 給養ヲ為サンガクノニ前述ノ勞働ヲ課スルモ尚ホ携帶糧秣ノ増量ヲ必要ト
 ス、キ否、又目下兵卒又乘馬ノ負擔量ハ已ニ其最高度ニ達シ二三ノ國ニ於
 テ此負擔量減少ノ研究中ナリ、故ニ若シ強テ携帶糧秣ノ増量ヲ決行

ト云々目下ノ負擔品中若干ヲ減却シ携帶糧秣増加ノ爲メ人馬ノ負擔量ニ
増加ナクウシムルノ研究ヲ要セサルヤ否ヤ此等諸問題ヲ研究シタル後ニ於テ
携帶糧秣増量ノ問題ヲ決定セルヲ至當トス

0407

規制		歩兵二旅團		騎兵聯隊		野戰砲兵聯隊		工兵大隊		軍醫隊		衛生隊		合計	
人員	馬匹	備	飼食物	馬	備	飼食物	馬	備	飼食物	馬	備	飼食物	馬	備	飼食物
約 500	約 100	約 200	約 400	約 800	約 1600	約 3200	約 6400	約 12800	約 25600	約 51200	約 102400	約 204800	約 409600	約 819200	約 1638400

備考

(一) 四、數字ハ標本調査委員報告ノ数量ニ規制ノ飼食物雜糧肉ノ數量ヲ加シテ算シタルモノトス
 (二) 軍醫、補給隊、規則兵、新米共ニ精米ニ在リテ飼食物ノ數量ヲ加シテ算シタルモノトス
 (三) 衛生隊、規則兵、新米共ニ精米ニ在リテ飼食物ノ數量ヲ加シテ算シタルモノトス
 (四) 合計ノ數量ハ約 1,638,400 馬、飼食物 16,384,000 石、雜糧 1,638,400 石、肉 1,638,400 石トス

現制	歩兵二旅團	騎兵聯隊	野戦砲兵聯隊	玉兵大隊	聖橋砲隊	衛生隊	合計	現制			備考		
								人員	馬匹	糧食	人員	馬匹	糧食
師團司令部	2,378	8,548	1,952	782	1,772	730	18,583	1,450	5,100	2,850	1,450	5,100	2,850
歩兵二旅團	13,844	10,358	2,469	1,110	1,107	92	37,666	2,450	7,800	15,300	2,450	7,800	15,300
騎兵聯隊	8,548	6,155	1,450	580	1,110	92	21,985	1,450	4,500	9,000	1,450	4,500	9,000
野戦砲兵聯隊	1,952	1,450	580	1,110	1,110	92	8,204	580	1,450	2,850	580	1,450	2,850
玉兵大隊	782	580	1,110	1,110	1,110	92	5,784	580	1,450	2,850	580	1,450	2,850
聖橋砲隊	1,772	1,110	1,110	1,110	1,110	92	6,604	1,110	1,450	2,850	1,110	1,450	2,850
衛生隊	730	92	1,110	1,110	1,110	92	5,154	1,110	1,450	2,850	1,110	1,450	2,850
合計	46,733	37,666	9,751	5,802	6,779	556	147,211	10,170	27,700	54,400	10,170	27,700	54,400

備考
 一、旅団内の数量を調査する。報告の数量と同一であるが、糧食は旅団内の数量と同一である。食糧三級及び之を要する相違を考慮し、人員の暮
 一、旅団内の数量を調査する。報告の数量と同一であるが、糧食は旅団内の数量と同一である。食糧三級及び之を要する相違を考慮し、人員の暮
 一、旅団内の数量を調査する。報告の数量と同一であるが、糧食は旅団内の数量と同一である。食糧三級及び之を要する相違を考慮し、人員の暮
 一、旅団内の数量を調査する。報告の数量と同一であるが、糧食は旅団内の数量と同一である。食糧三級及び之を要する相違を考慮し、人員の暮
 一、旅団内の数量を調査する。報告の数量と同一であるが、糧食は旅団内の数量と同一である。食糧三級及び之を要する相違を考慮し、人員の暮
 一、旅団内の数量を調査する。報告の数量と同一であるが、糧食は旅団内の数量と同一である。食糧三級及び之を要する相違を考慮し、人員の暮
 一、旅団内の数量を調査する。報告の数量と同一であるが、糧食は旅団内の数量と同一である。食糧三級及び之を要する相違を考慮し、人員の暮
 一、旅団内の数量を調査する。報告の数量と同一であるが、糧食は旅団内の数量と同一である。食糧三級及び之を要する相違を考慮し、人員の暮

三十一日